

(5) ポストコロナを見据えた地域づくりの推進について

～賑わいの創出と観光の復興にむけて～

ポストコロナにおける豊かで活力のある地域づくりを実施するため、観光復興に向けた道の駅の利活用や地域の文化、景観に配慮した道路空間づくり、また、公園を活用したワーケーションなど、以下の取組を推進します。

●「道の駅」の新たな連携による観光PRの促進

道の駅「奥伊勢おおだい」を中心として、大台町の官民の関係者が連携し、観光資源の発信のため、「新・道の駅観光連携協議会」を立ち上げ、観光PR事業を促進

※今後、他の道の駅を核として取組を展開予定

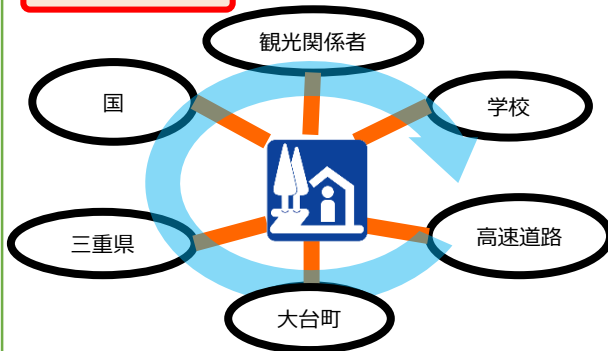
<主な連携事業>

- ・昴学園高校生徒による絵画展示
- ・道の駅での観光ポスター展示
- ・道の駅の施設整備工事
- ・道路案内表示の設置 他



昴学園高校生徒の絵画展示（奥伊勢PA）

新たな連携



道の駅「奥伊勢おおだい」施設整備工事

県は、協議会事務局として各連携先とのコーディネートを行う。

●熊野古道の文化を感じる道路空間づくり

関係部局と連携し、熊野古道の歴史的資源を活かし、来訪者に「地域文化」を感じていただける道路空間づくりを推進するため、松本峠（熊野市）、馬越峠（尾鷲市、紀北町）を対象とした協議会を設置予定

※今後、国や関係市町の協力のもと、ロードマップによる整備メニューを展開予定

文化を感じる
道路空間づくり協議会
(仮称) を設置予定

【協議会設置のポイント】
他の観光振興等施策を推進するため、
関係部局との連携を強化
【メンバー】(案)
・熊野古道協働会議
・国土交通省、三重県
・尾鷲市、熊野市、紀北町

県は、協議会事務局として各連携先とのコーディネート及び施策を実施する。

連携施策項目(案)

- 木製ガードレール
- 案内表示板
- 観光案内板 他



(イメージ) 木製ガードレール

● 交流人口の拡大に向けた 新たな賑わいの創出

交流人口の拡大に向け、熊野灘臨海公園においてワーケーションの推進と官民連携の相乗効果により、広域的な観光誘客を促進

心身をリフレッシュできる
アクティビティ施設を充実！

公園内のコテージを
ワーケーション対応に改修！



新プール整備

令和5年夏頃完成予定



PCスペースを設置

Wi-Fi完備

令和3年12月 リニューアル

民間投資により、公園内に
グランピングドームを整備！

隣接する民間宿泊施設でも
大規模リニューアルを実施！



東紀州地域初の
グランピング施設

Wi-Fi完備

令和3年10月 完成



Wi-Fi完備

令和3年4月 リニューアル

● インフラツーリズム

公共空間やインフラを活用した、観光誘客につながる取組を推進予定

また、若手勉強会において、先進地を参考にインフラツーリズムに関する取組を年内に知事・県議会に報告する



月浦トンネル (石川県)

提供：金沢河川国道事務所



津軽ダム (青森県)

令和5年度の実装方針：

- ・インフラ施設に訪れたいくなる仕掛けづくり
- ・インフラ空間の多目的化
- ・訪れる人にやさしい受入環境の整備